

令和元年度

事業所名： グループホーム「箱根山」(西棟)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391000114		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム「箱根山」(西棟)		
所在地	〒029-2207 岩手県陸前高田市小友町字猪森77		
自己評価作成日	令和元年8月10日	評価結果市町村受理日	令和元年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人のその人らしさを大切に生活を送れるような施設作りに取り組んでいます。入居者は高齢となっておりますが、全面バリアフリーで安心して過ごせるようになってきました。リビングなどに床暖房、全居室にエアコンを設置しており、とても暖かく、また、高台に位置しておりリビングから見える田園風景はすばらしく快適に過ごせる環境が整っています。法人の医療・福祉に関する総合的なバックアップがあり、研修会も定期的に行っている。毎年地域の保育園や小学校の慰問の受け入れ交流を図っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JigyosyoCd=0391000114-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人勝久会が運営する事業所の一つとして、陸前高田市小友地域の小高い丘の中腹に立地し、周辺には、田畑や木々が広がっている。保育園や小学校、中学校のほか、商店や理容店などもある集落の中心地域に位置している。利用者は、保育園や小学校の子どもたちと日頃から交流を重ねている。医療法人の運営する各種施設等との連携の下、充実した介護サービスを提供し、利用者家族等、そして職員の安全や安心にも繋げている。事業所は、職員提案や資格取得の支援などにも取り組み、介護従事者の資質の向上とよりよいサービスと個別ケアに取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年9月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム「箱根山」(西棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに事業所の基本理念を掲示し、その理念を職員間で共有している。また、新職員が入ってきた時はその都度、基本理念を説明している。	開設当初に作成した理念について、昨年度、職員皆で話し合い、見直しをしている。職員は、掲示している理念を各自で毎日確認しているほか、ミーティングでは、理念に沿ったケース検討を行いながら実践に繋げている。理念は、概ね職員間で共有されているとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の文化祭への作品の展示や近隣保育所の散歩コースとなっており、毎月保育所だよりを届けに来てくれるなど交流を図っている。	日頃から散歩する近隣保育園児と挨拶を交わし、時々園児が来訪している。小学生のふれあい体験、高校生の職場体験、地域の獅子舞、歌や踊りのボランティアを受入れ、また地域文化祭への作品展示などを通じ、事業所への理解を深め信頼を高めるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生のふれあい体験や慰問の受け入れなどを通して、認知症の人の理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	保育所や小学校の感染症の流行情報や避難訓練に対する助言などを業務に反映させている。	隔月に定例的に開催している。保育園児などの交流策について、委員からの意見や提言を得て具体化に繋げている。活発に意見交換され、有意義な会議となっている。今後は、利用者との食事会なども企画し、委員の理解を一層深めたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会に参加しているほかに、市担当課職員や生活保護の担当職員と直接市役所へ出向き、相談や報告し連携を図っている。	運営推進会議や市主催会議に参加する中で、指導や助言を得、情報交換も行なっている。日頃から、介護関係書類を窓口へ直接持参し、顔見知りとして緊密に連携している。緊急を要する情報は、ファックスやメールを活用して密な情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会への参加やスタッフミーティングと一緒に身体拘束の事例などを話しあっている。玄関の施錠は夜間以外はずせず開放している。	身体拘束廃止に関する法人の標語を掲示し、職員意識の確立、共有を図り、同時に法人のマニュアル研修も受講している。特に、言葉による拘束に関しては、職員相互にその都度注意し合うなど、再発の防止を心がけながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の虐待防止の研修への参加や虐待防止のパンフレットや資料などを閲覧するように職員に促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットや資料などを閲覧するように職員に促している。実際に日常生活自立支援事業を利用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者、家族が不安に思っていることや疑問に思っている事を伺って、わかりやすく説明し不安解消に努めている。その都度不安や疑問などがあれば再度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人のホームページの「問い合わせ」や接遇委員会のアンケートで意見・要望を伝える事ができ、また面会時などでもご家族から意見を聞くようにしている。	イベント時を含め、来所の際に主に担当職員が意見等を伺っている。年1回の家族アンケート調査も行なっているが、特に運営に関する意見は出されていない。担当から毎月のお便りや広報で近況を報告しながら、意見を出しやすい関係を維持している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや毎月開催しているスタッフミーティングや年一回の個人面談等で各職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月の職員ミーティングだけではなく、業務の中や年1回の管理者面談を通じて、職員の意見・提案を受け止めている。職員から出された「超過勤務等勤務内容」などに関する意見については、その解決・解消策について職員皆で話し合い、納得のいく内容で解決している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ノー残業デーの設定や産休・育休などがとりやすい環境に努めている。また介護福祉士などの国家資格を取得した場合に給与や賞与の支給額に反映される仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行われる定期的な研修会への参加やグループホーム協会で行われる研修、認知症介護実践者研修などに参加させ、その研修の報告を行い情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の地域密着型サービス協会の研修会や沿岸南ブロック定例会に参加し、その中で他のホームの職員との意見交換を行いサービスの質の向上につなげている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに見学に来た時など、ご本人やご家族の希望や訴えを傾聴し、その中で何が必要で、どうして欲しいのか、スタッフ間で話し合い、安心して楽しい生活を送って頂く、コミュニケーションを図り、不安を取り除き信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の抱える問題、意見などをお聞きしそのニーズに応えられるように、誠意を持った対応と安心してホームに任せられると言って頂く為にも、きちんと内容を説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の際はこれまでの生活スタイルを崩さないように、安心してホームで過ごせるようコミュニケーションを図ったり、不安がないか傾聴し、その人らしくホームの生活に慣れ親しんでいく対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中の役割として、その利用者のできる事を職員と一緒にさせて頂いている。例えば、食事の片づけ、食器洗い、洗濯物たたみ、洗濯物干し、床拭き、雑巾縫い等を一緒にする事で、信頼関係を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者から連絡表や面会時本人の情報を伝え、ホームのイベント(夕涼み会、敬老会、クリスマス会など)には参加の協力を依頼し交流を図ったり、可能のご家族には病院受診をお願いして入居者の健康状態を共有・把握し関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者についてはスタッフが把握出来るよう本人との関係を記録している。又、ドライブで出身地である地元に出掛けたり、新聞等身近なニュースや市内の出来事について入居者との会話の中に取り入れている。	利用者の馴染みの関係は、家族や親類、ご近所の方が主になっている。時々、馴染みの理容院に出かけたり、訪問理容を活用し楽しい時間を過ごしている。これからも、家族からの情報や利用者に寄り添う事で得た気づきをそれぞれ記録し、職員間で共有しながら、利用者の馴染みの継続や新たな馴染みの関係の支援に繋げていきたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の相性を考えた座席としている。また、職員が間に入りトラブルを回避したり、仲介し円滑に交流を図れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて連絡等を行ったり、個人情報に配慮しながら、外部であった際には挨拶や会話を持つ機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族に生活歴を聞き、それを基にしながら入居者からも情報を得て意向の把握に努めている。困難な場合は表情を見極め検討している。	聴き取りのできる利用者からは、直接に思いや意向を伺い、出来ない方からは普段の態度や表情などから推し量って対応している。「好きなこと」や「嫌いなこと」、「したいこと」や「したくないこと」を把握しながら、ホームでの本人本位の楽しい暮らしの提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家庭などを訪問して生活の様子をお伺いしている。ご本人やご家族、ケアマネジャーからの情報を集めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察を行い、日々の記録にも努め、職員間で周知徹底するようにしている事で、小さな変化にも気付けるように努めている。定期的に看護師に健康チェックをしてもらい、心身状態の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでケアプランの内容を評価し現状で新たなニーズがある場合対応の検討を話し合っている。面会時や電話等ご家族へ意向や方向性を確認しご家族の意見も尊重し作成している。	計画作成担当者は居室担当が記録するケース記録や毎月のモニタリングを基に原案を作成し、ケアマネと家族等の意見を伺い、定例は6か月ごとにプランを見直している。カンファレンスでは各職員がそれぞれの利用者について積極的にアイデアを出し合い、職員みんなが関わったプランとしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やご本人の言葉・エピソード等を記録と申し送りなどで確認しながら、情報を共有し介護計画の見直しにも活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望をお伺いし外出を勧めている。買い物の代行や通院介助などもご家族の状況に応じて行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭への作品の展示の為、作品作りを行っている。小学校の学習発表会の見学など地域の方々との交流に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望されるかかりつけ医に受診している。受診の際には、職員対応とご協力を頂けるご家族には、経過報告を記載した受診連絡表をご持参頂き、通院して頂いている。	利用開始時のかかりつけ医を受診している。受診同行は、家族を基本としながら、職員の同行にも柔軟に対応している。バイタル等の情報は、家族が持参し医師に提供している。日常の健康管理は、かかりつけ医の指示や訪問看護師の助言を得ながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が健康指導を行っている。体調不良時や緊急時など相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院先へ情報提供書を提出し退院時に病院から情報を頂いている。定期的にご家族にも連絡し状態の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良やADLの低下が著しい場合などは早期にご本人・ご家族と終末期について話し合いを持ち、情報の共有をしている。母体である老人保健施設やクリニックへの入所・入院を希望する方が多く、相談員と連絡を取り合う事も多い。	重度化や終末期、看取りへの対応については、利用開始時に説明し、本人や家族等の意向を伺っている。容態が急変した際には、再度、家族の意向を確認している。看取りは、家族から申し出があった場合には、医師等と協議の上で対応するとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変のマニュアルは作成されている。又職員が救命講習の研修に参加しスキルアップにつなげている。訪問看護との連携し指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼間・夜間を想定し火災発生時の避難訓練を行っている。又、運営推進会議にて地域、消防、ご家族との関係性を深め協力を求めている。	避難訓練は年2回定例(春秋)で実施し、火災を中心とし夜間も考慮して行なっている。これからは、地域協力について、いざというときに駆けつけてくれる方を具体的に依頼したいとしている。職員のAED講習を実施し、ハザードマップも確認している。	近隣が少ない当事業所の立地環境の中で、非常時にどのような支援を得ることが可能か、行政や消防機関を交えて、運営推進会議等で引き続き検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会に参加して、対応の仕方・言葉使い話し方・気遣いなど相手を尊重した接し方をしている。	利用者の皆さんへの声がけは、「さんづけ」を基本にしながら、利用者が「したいことはしてもらい」、居室への入室は「了解を得てから」、職員の「排泄の際の声がけは小声で」など、人格の尊重とプライバシーに配慮している。個人情報も、パソコンで打ち込み、データとして保管管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうしたいのか？何をしたいのか？自己決定出来るような、声掛けを行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体調に合わせて職員側の都合を優先する事なく、時間がかかっても入居者の能力を活かした生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長くに渡ってなじみの理髪店に年4回程来て頂いて、ご本人の希望に沿ったカットにしている。個々の馴染みの理髪店に行く入居者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が感じられる様な旬な食材を取り入れたメニューを提供し食べる楽しみを持って頂いている。出来る入居者には後片付けの手伝いをお願いしている。	管理栄養士の指導や利用者のリクエストを聞きながら、職員が献立を作成し調理している。職員と一緒に利用者も買い物に出かけ、食材の下拵え、味付け味見、下膳、洗い、片付けの作業のうち、出来る事に加わりながら、職員と一緒に談笑しながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事・水分の摂取状況を把握し状態に合わせて、お粥や刻みでの対応もしている。水分摂取量が足りない方にはゼリー等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を頂きながら、毎食後うがい、義歯洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。本人が出来ない場合職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しトイレに行きたい時の行動を見守り、一人で行けない方には声掛け、誘導を行い、身体状況に応じた介助を行っている。	利用者の殆どが何らかの介護用品を装着しているが、人感センサーも活用しながら、夜間も含め、基本的にトイレでの排泄を徹底している。声かけも近くで小声で誘導を行ないながら、羞恥心に心くばりしている。特に、失敗した際には、優しい声かけを徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や乳製品の提供、水分を増やす等便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一对一で対応し声掛けしながら楽しく入浴できるよう取り組んでいる。入浴したくない時はシャワー浴で清潔に過ごせるよう支援している。	毎日、午前又は午後の概ね週2回入浴し、清潔の保持に努めている。入浴を避ける方には無理強いせず、時間や日程を変更して対応している。菖蒲湯や柚子湯を行ったり、一人でゆったり、或いは職員と語り合ったり、唄を歌ったりして、入浴のひと時を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを理解し、プライベートな時間を穏やかに過ごせるように支援している。疲れが見られる時や昼食後に希望する場合は昼寝をさせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が変更された場合は伝達周知し、服薬後変化があった場合は、訪問看護師に報告するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者の生活歴、好きな事、能力を把握し、それを活かして掃除や縫い物などを手伝って頂いたり、やりがいのある生活できるよう支援している。また、馴染みの場所や季節に合わせた場所などにドライブ等をして気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やご本人の体調に合わせて散歩やドライブ、買い物に出掛けられるようにしている。また年間の行事計画があり、季節を感じられるように支援している。ご家族の協力の下、外出される事もある。	利用者自身の意欲と天候の具合に応じ、日頃から散歩や外気浴、日向ぼっこ、ラジオ体操をしている。楽しい四季折々のドライブ(春の花見、秋の紅葉狩りなど)にも出かけている。これからも、家族等の協力を得て、通院などの際に外食や外泊などを楽しんでもらいたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に職員が管理とさせて頂いている。ご本人から欲しい物や必要な物などの要望があれば、一緒に買いに行くこともある。ご家族には毎月送付する連絡表にて出入金を把握して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族の協力を仰ぎ、ご本人の協力があれば、電話や手紙のやりとりが出来るように支援している。お正月にはホームから毎年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や生活感を感じて頂けるように、リビングや廊下、入居者居室の入り口などに壁面飾りを飾ったり、玄関には季節の花を置いたりしている。温度・湿度はエアコンで管理し、適切な環境を保っている。	天窓から明るく暖かい日差しが差し込む中、リビングで利用者は、一人又は何人かで思いの思いの場所に腰をかけ、ゆったりと好きなことをしながら過ごしている。気になる臭いや音もなく、清掃や整理整頓が行き届き、居心地のよい共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をする席以外は入居者の自由にされている。好きなソファの席でテレビを観たり、入居者同士や職員とレクをしたり、会話を楽しんだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前より使っていた物、なじみのある物を積極的に居室内に取り入れ、入居者が少しでも居心地良く過ごせるように工夫している。家族写真や入居者が作成した作品を飾り、生活感を感じられるよう努めている。	自宅で利用していた時計やカレンダー、鏡など、手づくり作品や家族写真などを好きな場所に置いたり掲げたりしている。衣替えは、家族と一緒にしている。入口には表札を掲げ、掃除も職員と一緒にしない、清潔で綺麗な居室としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており安全面を考慮した作りとなっている。職員も入居者の状態に合わせて付き添いや手引き歩行を行うなど、入居者一人一人に合わせた対応をしている。又、入居者に役割を持って頂き、職員の家事をする等「出来る事」を活かせるように配慮している。		